

# Syllabus

## Syllabus の活用にあたって

Syllabus 「シラバス」は、授業項目、講義案を意味します。

このSyllabusには、皆さんが、今年度に学習する授業の科目名・単位数はじめ、ねらいや内容、教育形態、評価（情報源・規準）等が書かれています。

カリキュラムは、学習の積み上げを意識して、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野から構成されています。そして、社会の変化とともに看護師に求められている能力を養うために、各分野の教育内容を強化しました。

Syllabusに単位数が示されていますが、単位とは一定の質の勉学の量を、示す基準となるものです。

単位の計算方法は、高等学校の場合と異なり、専攻科においては大学設置基準第21条第2項の規定\*の例によると定められています。（保健師助産師看護師等学校養成所指定規則）つまり、1単位の履修時間は、教室（学校）の内外合わせて45時間です。科目の単位は次の基準\*によって定められています。

単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができます。

## 専攻科2年 令和7年度（2025）

1 単位と計算される勉学の時間量には、教室（学校）内における勉学だけでなく、自主学習を含めて計算されることになっています。つまり、受け身ではなく、求められる教育内容を自ら学んでいかなければなりません。それによって生涯にわたって学び続ける力をつけてほしいです。

**生涯学び続けることは、専門職には欠かせない要件です。**

### 【1単位の基準表】

区分	授業時間	自己学習時間	計
講義	15	30	45
	30	15	45
演習	30	15	45
実験・実習	45	—	45

（専攻科の授業時数は、1時限90分を2時間とみなしている。）

### CONTENTS

基礎分野	-----	1 頁
専門基礎分野	-----	6 頁
専門分野Ⅱ	-----	9 頁
統合分野	-----	19 頁

（臨地実習については「臨地実習便覧」も参照）

## 令和6年度 入学生教育課程表

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校専攻科

教育内容	人間と生活・社会の理解	科目	英語	単位数(時間)	2単位(30時間)	学年	専攻科 2 年
科目の目標	看護・医療現場で求められる高度な医療専門用語や英語表現、コミュニケーションスキルを身につける。また、医療に関する英文を読める能力を養う。						
教科書	First Aid!English for Nursing(金星堂) 看護英会話入門第3版(医学書院)			評価方法	授業態度(参加度)、提出物、小テスト、定期考查、出席状況		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	Unit 1 First Visit to a Hospital Lesson16 Admission, The Patient's Room	来院時に案内する際の語彙や表現	○授業で扱った事項を積極的に使い、コミュニケーションを取る。また、単語・熟語を身につけ会話などに生かしている。(関心・意欲・態度)
3 4	Unit 2 How to Fill in a Registration Form Lesson17 Stroke, Cardiac Pacemaker	初診受付時に必要な語彙や表現	○国際的思考、感覚を身につけ、グローバルな視点から判断できる。(思考・判断・表現)
5 6	Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities Lesson 18 1st Morning Post-op, 3rd Day Post-	生活習慣を聞く	○既知の情報をもとにスムーズに会話を進める技能を身につけている。(技能)
7 8	Unit 4 Mr. Brown's Symptoms Lesson 19 Diabetes, Patient Teaching at Discharge	問診時に症状について尋ねる際の語彙や表現	○ナースが患者と接するときに必要な医療英語・表現を身につける。また、医療に関する英文を読むことができる。(知識・理解)
9 10	Unit 5 Medical Checkup 1 Lesson 20 Leg Fracture, Endocrine Disorder	脈拍、血圧、体重の測定の際の語彙や表現	
11 12	Unit 6 Medical Checkup 2 Lesson21-A Labor and Delivery	採血、採尿などの検査に必要な語彙や表現	
13 14	Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis Lesson21-B Liver Disease	診断結果の説明に必要な語彙や表現	
15 16	Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms Lesson22-A Pneumonia	問診により詳しく尋ねる際の語彙や表現	
17 18	Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms Lesson22-B Osteoporosis	症状をより詳しく尋ねる際の語彙や表現	
19 20	Unit 10 Explaining Blood Test Results Lesson23-A Care Designation	診断結果の説明に必要な語彙や表現	
21 22	Unit 11 How to Take Medicine Lesson23-B Home Care-Dementia	薬の服用の際の語彙や表現	
23 24	Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy Lesson24-A Home Care-Bath Service	問診時に患者の症状や原因を尋ねる語彙や表現	
25 26	Unit 13 An MRI Test Lesson24-B Day Service	MRI検査の説明で使う語彙や表現	
27 28	Unit 14 Recommending an Operation Lesson 25-A Health Maintenance Nursing Home	手術をすすめる際の検査や手術の説明で使う語彙や表現	
29 30	Unit 15 Post-operative Care Lesson25-B Long-Term CareNursing Home	術後の患者さんとの会話や表現	

基礎分野	科目名	単位(2)	履修学年					科目の種類					
	教育学	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2	全員必修科目					
科 目 の 目 標													
<p>教育に関する基礎的な知識、教育を構成する諸要素、教育の実践に必要な知識、現代教育に求められている新たな課題等について学ぶことにより、人間形成のあり方について認識を深める。</p> <p>また、このことにより、医療・看護職従事者として必要な「人間の成長に関する理解力」を高め学び続けることの重要性を深く認識することにより、質の高い専門職者として活動できる素地を養う。</p>													
学習内容	学習内容ごとの目標					指導上の留意点							
① 社会における看護と教育 ② 教育の概念と子ども観 ③ 社会変動と教育の組織化 ④ 教育の構成要素 ⑤ 教育の受け手の見まもり ⑥ 「発達」の概念 ⑦ 教育の営みの考察1 ⑧ 教育の営みの考察2 ⑨ 教育の目標と評価 ⑩ 教育の専門性 ⑪ 教育の組織化 ⑫ 現代教育の新たな課題1 ⑬ 現代教育の新たな課題2 ⑭ 現代教育の新たな課題3 ⑮ 現代教育の新たな課題4	<p>人間の成長を支える仕組みを学ぶ 子ども観の形成と教育の意義の理解 社会の変容に伴う公教育化の過程 育つ力と育てる立場のかかわり 養護の機能と過程 教育による発達の理解 子どもが学び育つ場としての家庭・学校 学校に通うという意味の変化の理解 評価の種類と目的 専門性と専門職の理解 教育行政と学校運営 キャリア教育・ジェンダー 特別ニーズ教育とインクルーシブ教育 シティイズンシップ教育 生涯学習</p>					<p>看護と教育の共通点 子どもの権利の認識 学校形成の必要性 教育の主体の理解 学校養護の必要性 病児の発達を含めて 学校と家庭の役割 不登校をどうとらえるか 評価の開発と発展 養護教諭の専門性を通じて 義務教育の場と教育参加 キャリア教育の限界 障害の種類と教育の態様 政治的リテラシーの教育 看護師の生涯学習</p>							
使用教科書・教材・実技実習材料など													
教科書「系統看護学講座 基礎分野 教育学」						教員作成教材							
評価の情報源	教育形態												
出席状況 授業への取り組み(意欲・関心・態度) 提出物・定期テスト	<p>授業・演習 プロジェクトによって進行する。効果的なノートづくりの努力を要する。</p>												
評価基準													
関心・意欲・態度	思考・判断・表現			技 能		知識・理解							
人間の成長において教育のはたす役割について、積極的に学ぼうとする意欲や態度がみえること。	<p>教育の成立や発達の過程と現代教育の諸相や課題を深く考え、その結果を適切に表現できること。</p>			<p>様々な媒体によつてもたらされる情報を的確に把握・記録して実務に生かす技能を身につけていること。</p>		<p>人間形成と教育の関係における様々な論考が、社会人として、また看護職として必要な知識と理解のレベルに達していること。</p>							

基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類							
	心理学	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目							
科目の目標															
人間の心や行動を理解するための心理学を学び、自己理解に役立てると共に患者の心理の理解や患者とその家族、職場の同僚などの人間関係を理解し、相手を思いやるコミュニケーションの取り方や信頼関係について考えを深める。															
学習内容		学習内容ごとの目標					指導上の留意点等								
1) 様々な心理学の立場を知り、その基礎知識を学ぶ。 ①知覚の心理 ②記憶の心理 ③思考・想像・言語の心理 ④知能の心理 ⑤学習の心理 ⑥感情・情緒・情操の心理		知覚、記憶、思考・想像・言語、知能、学習、感情・情緒・情操の心理について基礎知識を学び、自己及び他者を理解する。					心理学の基礎知識を身につけ、自己や自分の周りにいる人々に対して理解を深める視点を養えるよう配慮する。								
2) 様々な心理学の立場を知り、その基礎知識を学ぶ。 ①適応の心理 ②性格の心理 ③集団の心理 ④発達の心理		適応、性格、集団、発達の心理について学び、人間の行動を理解するための基礎知識を学ぶ。					人間の行動を引き起こすものを理解しようとする心理学の基礎知識を身につけ、自己と他者とのかかわりについて視野を広げられるよう配慮する。								
3) コミュニケーションの基本的な知識を学ぶ。 ①コミュニケーションの特徴 ②カウンセリング		コミュニケーションの基本を理解し、また、不適応行動を適応行動にかえていくための基礎知識と技術について理解する。					コミュニケーションやカウンセリングの基礎知識と技術について理解し、患者への話し方、話の聴き方、接するときの表情・態度に思いをはせられるよう、演習を取り入れながら自己のコミュニケーションの取り方を振り返る機会とする。								
使用教科書・教材・実技実習材料など															
系統看護学講座 心理学 医学書院															
評価の情報源				教育形態											
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト				授業・演習											
評価規準															
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解										
看護を行うために必要な人間の心や行動を知るための心理について関心を持ち、コミュニケーションの基礎知識と技術を理解しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けています。	看護を行うために必要な人間の心や行動を知るための心理について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して自己を振り返り、他者を理解する能力を身に付ける。その成果を的確に表現する。	看護を行うために必要な人間の心と行動に関する心理学に関する基礎・基本的な知識・技術を基盤として、人間関係やコミュニケーションについて理解を深める技能を身に付けています。			看護を行うために必要な人間の心と行動に関する心理学に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、人間関係やコミュニケーションについて理解している。										

教育内容	人間と生活・社会の理解	科目	情報科学	単位数(時間)	1単位(30時間)	学年	専攻科 2年
科目的目標	「情報とは何か」を知り、その「いかし方」と「まもり方」の双方を学ぶ。 「情報」と「コミュニケーション」を、看護の実践や看護学に生かす方法を学ぶ。 ICTを看護に取り入れることの重要性を知り、現代の医療を支える能力を養う。						
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学（医学書院）			評価方法	授業への取り組み・提出物 レポート課題・グループ討議		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第1章 情報の定義と特徴 第2章 社会と情報	「情報」とは何かを学び、看護にとっての情報の意義を理解する。	・「情報」の特徴を理解し、看護にとっての情報の意義を述べることができる。
3 4	第10章 既存の情報の収集方法 第9章 コンピュータリテラシーとセキュリティ	文献検索の方法を知り、各自の看護研究につなげる。	・文献検索の方法がわかり、活用できる。 ・コンピュータを利用する際のリスクとその対処方法が分かる。
5 6	第13章 文字情報の整理	対象と目的に応じた文字情報の整理のポイントを理解する。	・ケースレポートや論文の書き方が分かる。 ・読み手が誰なのかを考えている。
7 8	第8章 個人情報の保護	医療・看護における個人情報と守秘義務についての基本的知識を習得し、専門職としての責務を理解する。	・個人情報の保護についての基礎的な知識を習得している。 ・看護研究において正しく個人情報を取り扱うことができる。
9 10	ワープロソフトの使い方①	ワープロソフトのさまざまな機能について学び、活用する。	・wordの文字入力、挿入、ページ設定などの機能を活用し、文書を作成できる。
11 12	ワープロソフトの使い方②		・wordの参考資料機能を活用できる。 ・webで担当教員とやり取りできる。
13 14	ワープロソフトの使い方③		・論文形式で文書を作成できる。
15 16	第14章 情報の発表とコミュニケーション	プレゼンテーションの構成を理解し、効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	・効果的なプレゼンテーションとは何かを説明できる。
17 18	プレゼンテーションソフトの使い方	・Power Point を活用し、プレゼンテーション資料を作成することができる。	
19 20	第6章 情報倫理と医療	情報倫理について学ぶ。	・情報倫理に関心を示し、自分のこととしてとらえて考えている。
21 22	第7章 患者の権利と情報	患者の権利と自己決定について再確認し、理解を深める。	・医療や看護における情報の重要性について再認識し、患者の権利を尊重しようとしている。
23 24	演習：看護職としての情報倫理①	実際に起きた事例・事件などを分析して、具体的な対応方法を学ぶことで、看護職としての倫理観を養う。	・実際に起きた事例を自分のこととしてとらえ考えている。 ・なぜ起きたのか、詳しく分析できる。 ・具体的な対策を考えている。
25 26	演習：看護職としての情報倫理②		
27 28	演習：看護職としての情報倫理③	さまざまな事例を知ることで、知識の幅を広げる。	・他の事例に対して興味関心を示し、自分のこととしてとらえて意見を述べることができる。 ・卒後に活かす具体的な方法を考えている。
29 30	演習：看護職としての情報倫理④	他者の考えに触れることで、自分の倫理観を磨く。	・自分の倫理観が言える。

基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
	言語表現	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2〇										
科目の目標																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。</li> <li>・思考力を伸ばし、心情に豊かにし、言語感覚を磨くとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</li> </ul>																	
学習内容	学習内容ごとの目標			指導上の留意点等													
・自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合う。	<p>「話す・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の基盤となる事柄を理解するとともに、表現全般に通じる基礎的な方法を習得する。</p>			<p>・「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」「書くこと」の指導は、相互の関連を図りながら効果的に行うようする。</p>													
・情報を収集、整理し正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる。  ・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりする。	<p>記録・報告、通信・案内・伝達、意見・主張などにわけ、ジャンル・形式別の表現技法を身につける。</p>			<p>情報を活用して表現する力や論理的思考力をのばすように配慮する。</p>													
・様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てる。  ・国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深める。	<p>現代語についての理解を深める。</p>			<p>現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割について考えさせるようする。</p>													
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
授業者が準備する																	
評価の情報源	教育形態																
出席状況 授業への取り組み 提出物 (論作文、作品、演習プリント) 小テスト 考査	授業・演習																
評価規準																	
関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	読む能力・書く能力			知識・理解												
・目的や場に応じて言葉遣いや文体など、表現を工夫しようとしている。 ・様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを持って論理的に意見を述べている。</li> <li>・自分の考えを尊重して話し合っている。</li> <li>・目的や場に応じて言葉遣いなど表現し、工夫して話している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くために必要な情報を収集・整理し、的確に理解している。</li> <li>・収集整理した情報を正確かつ簡潔に伝える文章にまとめている。</li> <li>・目的や場に応じて言葉遣いや文体などを工夫して書いている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の表現の特色について理解している。</li> <li>・語句や語彙の成り立ちについて理解している。</li> <li>・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解している。</li> </ul>												

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	ヘルスプロモーション論	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目の目標	保健・医療を統合的に把握し、医療の概念の変遷と仕組みについて理解する。 放射線医学の基礎知識を習得し、看護師としての役割を理解する。						
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)				評価方法	授業への取り組み・提出物 定期考査	

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【医療総論】 1. 現代医療の新たな課題 2. 現代医療の最前線	看護職として日々変わり行く医療の流れを捉え、対応できる視点を持つことを学ぶ。	・先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマについて関心を持ち、自らのこととしてとらえ考えている。 ・知識に基づき、自分の考えを述べることができる。 ・医療全体を見る視点をもっている。 ・卒後に活かせるよう、具体的に考えている。
3 4	3. 医療を見つめ直す新しい視点 4. 保健・医療・福祉の潮流		
5 6	【放射線医学】 第1章 画像診断と看護 第2章 X線診断	放射線領域における看護師の役割を学ぶ。 X線診断について理解する。	・放射線医学に関心を持ち、積極的に授業に取り組んでいる。
7 8	第3章 CT 第4章 MRI 第5章 超音波検査	CT、MRI、超音波検査について理解する。	・X線診断、CT、MRI、核医学検査、IVR,血管造影について、その方法や看護を理解している。
9 10	第6章 核医学検査 第7章 IVR・血管造影	核医学検査およびIVR・血管造影について理解する。	
11 12	第8章 放射線治療総論 第9章 放射線治療と看護	放射線治療とその看護について学ぶ。	放射線治療について学び、根拠に基づいた看護について理解している。
13 14	第11章 放射線による障害と防護	放射線による障害とその防護方法について学ぶ。	放射線による障害を理解し、防護する方法を理解している。
15	考査	知識の定着を図る。	

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	公衆衛生	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目の目標	健康の保持・増進、疾病構造の変化や環境問題などの動向について理解する。						
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 南江堂			評価方法	出席状況 授業への取り組み 提出物(ノート・レポート)テスト 試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	Chapter 1 衛生学・公衆衛生学序論 Chapter 2 保険統計 Chapter 3 疫学	公衆衛生の考え方、歴史、生活環境の変化について学ぶ。 集団の健康の程度を知るための方法、疫学調査の方法、各種の数値指標の計算法を理解させる。	公衆衛生の考え方、歴史、生活環境の変化について学び、公衆衛生看護を理解する。 集団の健康の程度を知るための方法、疫学調査の方法、各種の数値指標の計算法を理解する。
3 4	Chapter 4 疾病予防と健康管理 Chapter 5 主な疾病の予防	保健・医療制度や健康指針などの整備、社会環境に対するアプローチなど幅広い予防対策について理解させる。	保健・医療制度や健康指針などの整備、社会環境に対するアプローチなど幅広い予防対策について理解する。
5 6	Chapter 6 環境保健	地球環境問題への取り組みや生態系の中での人の健康について理解させる。	地球環境問題への取り組みや生態系の中での人の健康について理解する。
7 8	Chapter 7 地域保健と保健行政	一人ひとりが、より健康になるための地域のあり方、各種保健活動について理解させる。	個人と地域とのダイナミックな関係、一人ひとりがより健康になるための地域のあり方、各種保健活動について理解する。
9 10	Chapter 8 母子保健 Chapter 9 学校保健 Chapter 10 産業保健	各分野の具体的な政策について理解させる。	各分野の特徴を理解し、その人らしく地域で生活していくための政策について理解できる。
11 12	Chapter 11 高齢者の保健・医療・介護 Chapter 12 精神保健 Chapter 13 国際保健医療	各分野の具体的な政策について理解させる。	各分野の特徴を理解し、その人らしく地域で生活していくための政策について理解できる。
13 14	Chapter 14 保健医療福祉の制度と法規	保健医療行政の概要や保健制度、医療制度などについて理解させる。	保健医療福祉に関する制度や法規について理解できる。
15	試験	これまでの講義内容について試験を行うことで、知識の定着を図る。	

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	社会福祉	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)	学年	専攻科 2 年
科目的目標	社会保障の理念と基本的な制度の考え方について学ぶ。 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会保険や社会福祉の制度について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度（3）社会保 障・社会福祉（医学書院）				評価 方法	出席状況， 授業への取り組み， 小テスト， ペーパーテスト	

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度の理念や体系について知る	社会保障制度の理念や体系について言える。
3 4	社会保険とは	社会保険の種類や用語について学ぶ。	社会保険の種類や用語について理解する。
5 6	医療保険について（75歳未満）	被用者保険について学ぶ	被用者保険について理解する。
7 8	医療保険について（75歳未満）	国民健康保険について学ぶ	国民健康保険について理解する。
9 10	医療保険について（75歳以上）	後期高齢者医療制度について学ぶ	後期高齢者医療制度について理解する。
11 12	年金保険について	年金保険制度について学ぶ	年金保険制度について理解する。
13 14	介護保険について	介護保険の制度や手続きについて知る	介護保険の制度や手続きについて理解する。
15 16	介護保険について	介護保険の給付やサービスについて知る	介護保険の給付やサービスについて理解する
17 18	その他の社会保険と公的扶助	労働災害補償保険、雇用保険、公的扶助について知る	労働災害補償保険、雇用保険、公的扶助について知る
19 20	社会福祉とは	社会福祉の理念や根拠となる法理値について知る	社会福祉の理念や根拠となる法理値について知る
21 22	児童福祉について	児童福祉を行う機関や制度を知る	児童福祉を行う機関や制度を知る
23 24	障害者福祉について	障害の捉え方や基本理念について知る。障害者総合支援法に基づいたサービスについて知る	障害の捉え方や基本理念について知る。障害者総合支援法に基づいたサービスについて理解する。
25 26	高齢者福祉について	高齢者世帯の現状や福祉サービスについて知る。	高齢者世帯の現状や福祉サービスについて理解する。
27 28	その他の福祉について	その他、高齢者や障害者・児童へのサポート制度について知る	成年後見制度や日常生活支援事業、社会手当などについて理解する。
29 30	演習	国家試験の過去の問題を解いてみると によって授業の理解度を知る	国家試験の過去の問題を解いてみると によって授業の理解度を知る

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	看護関係法規	単位数 (時間)	1 単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目的目標	法規の概念を学び、保健医療福祉の諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解をはかる。 法規の概念、看護領域に關係の深い法規について学び、関心をもつことができる。						
教科書	看護学テキストNiCE 看護関係法規 (南江堂)				評価方法	授業への取り組み、提出物 (ノート・レポート) 小テスト ペーパーテスト	

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	法規の概念 看護活動に関する法律 (医療法)	法について一般的、基本的事項について学び、医療提供体制の基本となる法・制度を理解させる。	法について一般的、基本的事項を知り、医療提供体制の基本となる法・制度を理解できる。
3 4	医療従事者の身分、業務に関する法・制度 (医師法など)	医療従事者の身分、業務に関する法・制度について学ぶ。	医療従事者の身分、業務に関する法・制度を理解できる。
5 6	健康の保持増進に関する法・制度 (健康増進法・環境基本法・食品衛生法など)	健康の保持増進に関する法・制度について学ぶ。	健康の保持増進に関する法・制度について理解できる。
7 8	地域で看護を提供する際に必要な法・制度 (母子保健法・地域保健法・感染症法など)	地域で看護を提供する際に必要な法・制度について理解させる。	地域で看護を提供する際に必要な法・制度について理解できる。
9 10	疾病対策に関する法・制度 (がん対策基本法・災害対策基本法など)	疾病対策に関する法・制度について理解できる。	疾病対策に関する法・制度について理解させる。
11 12	労働者として労働に関する法・制度 (労働基準法など)	労働者として労働に関する法・制度について理解させる。	労働者として労働に関する法・制度について理解できる。
13 14	看護業務に関する法規について (保健師助産師看護師法など)	看護業務に関する法規について理解させる。	看護業務に関する法規について理解できる。
15	考查		

専門分野 II	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類										
	老年健康生活 支援論III	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目										
科 目 の 目 標																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護の役割を考える。</li> <li>高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。</li> <li>加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する。</li> </ul>																		
学習内容	学習内容ごとの目標					指導上の留意点等												
<b>【老年保健】</b> 保健・医療・福祉の場における課題 ①老年保健、福祉の動向と対策 ②ソーシャルサポートシステム ③社会資源、活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>老年者の自立支援システムの構築に向けた法律、施策の変遷やその目標を理解する。</li> <li>老年者のニーズに最適な制度活用を支援できるよう、保健医療福祉サービスの構成とサービスの特徴を理解する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な制度を活用し、多様な職種と協働する際に看護職に期待される役割について考察しながら、理解ができるように指導する。</li> <li>身近にある地域のサービスや制度などについて調べさせ、主体的に理解できるように指導する。</li> </ul>												
<b>【泌尿器疾患の看護】</b> 腎泌尿器疾患、症状、検査、治療 腎不全 糸球体腎炎 尿路感染症【腎盂腎炎、膀胱炎】 尿路結石症 尿路の腫瘍【腎がん、膀胱がん】、 前立腺肥大症	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎・泌尿器疾患の健康障害の特徴と援助方法を理解できる。</li> <li>治療や処置を受ける患者の看護を理解できる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>腎・泌尿器疾患の看護について急性期、慢性期の個別性や状態に応じた治療や処置の援助、合併症予防や身体可動性障害のある人への援助などについて理解させる。</li> </ul>												
使用教科書・教材・実技実習材料など																		
系統看護学講座	老年看護学	医学書院																
系統看護学講座	成人看護学8	腎・泌尿器疾患患者の看護																
評価の情報源	教育形態																	
出席状況 授業への取り組み 提出物 (ノート・レポート) 試験 小テスト	授業・グループ 校内演習																	
評価規準																		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解													
老年期にある人の総合的理解、看護、保健、医療、福祉活動、人権の尊重、疾病、障害、また高齢社会の問題について関心を持ち、その改善に向けて意欲的に取り組むことができる。	老年期にある人の問題や高齢社会の諸問題について解決するため、老年期の特徴や健康障害についての知識を基礎として、論理的に考え、適切な判断をすることができる。 様々な健康状態にある人のための適切な援助方法や対策を考え表現することができる。	老年期にある人の総合理解と健康の保持増進に対する援助に関する基礎的・基本的な知識を身につけています。			老年期にある人の健康を障害する因子について理解し、健康の保持増進に必要な知識を見つけ、老年看護の意義や役割を理解している。高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向や現状を理解している。													

専門分野 II	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
			1年	2年	3年	専1	専2 ○										
科 目 の 目 標																	
<p><b>A 母性疾患患者の看護</b></p> <p>1 ハイリスク、異常妊娠について理解する。 2 異常分娩について理解する。 3 異常産褥について理解する。 4 新生児の生理と異常を理解する。</p> <p><b>B 婦人科疾患患者の看護</b></p> <p>1 思春期に起こりやすい異常について理解する。 2 更年期・老年期における異常について理解する。 3 女性のライフステージ各期における異常の予防と対処方法について理解する。</p>																	
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等											
<p><b>A 母性疾患患者の看護</b></p> <p>①妊娠の異常と看護（ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠疾患、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、異所性妊娠） ②分娩の異常と看護（微弱陣痛、骨盤位、前期破水、胎児機能不全、分娩時異常出血、分娩遷延、産科手術（帝王切開術・吸引分娩） ③産褥の異常と看護（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥期の精神障害） ④新生児の異常と看護（新生児仮死、分娩外傷、高ビリルビン血症等の主な疾患と看護）</p>			<p>①ハイリスク、異常妊娠について理解する。 ②異常分娩について理解する。 ③異常産褥について理解する。 ④新生児の生理と異常を理解する。</p>			妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常について、正常な経過と対比しながら取り扱う。											
<p><b>B 女性生殖器疾患患者の看護</b></p> <p>①月経異常、機能性子宮出血、月経困難症、子宮発育異常・性感染症（STI）、 ②子宮筋腫、子宮癌、子宮内膜症、卵巣癌、総毛癌、更年期障害など ③子宮下垂および子宮脱、老人性膿炎など ④不妊症と不妊治療</p>			<p>①思春期に起こりやすい異常について理解する。 ②更年期・老年期における異常について理解する。 ③各期における異常の予防と対処方法について理解する。</p>			医師講師が授業を担当する。女性生殖器に発生する疾患の、診断検査・治療・予後について取り扱う。											
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
<p>系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 （医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 （医学書院）</p>																	
評価の情報源				教育形態													
出席状況 授業への取り組み、ペーパーテスト				授業・グループ演習													
評価規準																	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解														
ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護について関心を持ち、対象者の援助について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けています。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の健康状態を把握し、適切な看護介入をするために必要な思考を深めることができる。またその成果を的確に表現できる。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護について必要な技術を身に付けています。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護に関する知識を身に付け、理解している。														

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論Ⅱ	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目的目標	心のはたらきや自己形成、精神疾患の理解を深め、家族の役割や回復・リカバリー支援を学ぶことで、精神看護の実践に必要な知識と視点を養う。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院） 医学書院精神看護学Ⅰ・Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA			評価方法	授業への取り組み・課題の提出内容・プレゼンテーション・グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	心のさまざまなはたらきとしくみについて生理学的・心理学的・社会学的側面から理解する。	心のはたらきを生理学的、心理学的、社会学的観点から総合的に理解し、心の動きと環境の関係を多面的にとらえ、実際の生活や看護の場面に適応できる知識を身につけることができる。	心のはたらきについて、生理学的、心理学的、社会学的観点から説明することができる。 心のはたらきを単一の視点ではなく、多面的に考察し、生活や看護の場面にどのように影響を及ぼすか説明することができる。
3 4 5 6	どのようにして自己が形成されていくのかを理解し、代表的な精神療法の基本的な考え方を理解する。	自己の形成過程を理解し、代表的な精神療法の基本的な考え方を学ぶことで精神的健康の維持や回復に関する基礎的な知識を身につける。	心のしくみと人格の発達について理解し、人格にはどのような要素が含まれているかを考察することができる。 防衛機制の概念を理解し、日常生活の場や臨床場面での具体例をあげて説明することができる。
7 8	精神科疾患のあらわれ方について学び、精神看護における症状のとらえ方を理解する。	精神機能の障害であるさまざまな精神症状を学び、精神看護における症状のとらえ方を理解することができる。	精神疾患の主要な症状を理解し、症状の評価に基づき適切な看護の視点を持てるように考察することができる。
9 10	看護の基本となる人間関係についてシステム理論の観点から学び、家族のコミュニケーションや家族役割について学ぶ。	システム理論の観点から人間関係の基本を理解し、家族内のコミュニケーションや家族役割の特性を学ぶことで、対人関係の相互作用をとらえる力を養う。	システム理論の基本を理解し、家族のコミュニケーションや家族役割の特徴を踏まえて関係性をとらえ、看護に活かせる視点をもつことができる。
11 12 13 14 15 16	精神障害、精神疾患をもつ人との関係において、感情を通した自己理解と相手を尊重する姿勢を基盤とし、ケアの基本、関係のアセスメント、患者-看護師関係のしくみと対処について学ぶ。	精神障害、精神疾患をもつ患者との関係を築くために、自己理解と相手を尊重する姿勢を基盤に、適切なケアの方法を習得し、関係のアセスメントや患者-看護師関係の関係で生じる課題への対応方法を考える力を身につける。	自己理解と相手を尊重する姿勢を持ち、精神障害をもつ患者への接近方法やケアの基本、関係のアセスメント、患者-看護師関係で生じる課題への適切な対応方法について理解することができる。
17 18	精神障害をもつ人々の回復・リカバリーの意義を理解し、支援方法や看護師の役割、回復を促すグループ方法について学ぶ。	精神障害をもつ人々の回復・リカバリーを理解し、看護師としての支援方法やグループを活用した回復促進の方法について学ぶ。	回復・リカバリーの意義と支援方法について説明ができる、看護師として回復を促進するアプローチやグループの活用方法を理解することができる。
19 20	精神科におけるレクリエーションの意義を理解し、患者の回復支援や社会機能の向上に役立つレクリエーション活動の方法を学ぶ。	精神科におけるレクリエーション役割を理解し、患者の回復や社会機能の向上を促進する方法を学ぶ。	レクリエーション活動の意義を理解し、授業での体験を通じてその効果を実感し、臨地実習で活かせる視点を持つことができる。
21 22	精神障害をもつ人が受診から入院に至る過程、入院形態について学び、患者や家族が直面する障壁と、それに対する適切な支援方法を考える。	精神障害をもつ人が受診から入院に至る過程や入院形態を理解し、患者や家族が直面する障壁を認識した上で、必要な支援方法について学ぶ。	受診から入院に至る過程や入院形態について理解し、患者や家族が直面する障壁とそれに対する支援方法を考察することができる。
23 24 25 26	心と身体のつながり、精神疾患にともなう身体的ケア、抗精神病薬の有害反応と対処法、精神科の身体合併症について学ぶ。	心と身体の関係性を理解し、精神科治療における身体的ケアと合併症への対応方法を学ぶ。	心と身体のつながりを理解し、精神科治療における身体的ケアや合併症に適切に対応できる知識を持つことができる。
27 28	リエゾン精神看護の役割と活動内容医療チーム内での連携方法について学ぶ。	リエゾン精神看護の役割を理解し、医療チームでの連携方法を学ぶ。	リエゾン看護についての役割と活動内容を理解し、医療チームでの連携に活かせる実践的な能力を養う。
29 30	精神看護専門看護師の役割と活動内容を学び、資格取得の意義を考える。	精神看護専門看護師の役割と活動内容を理解し、自身の将来の進路にどのように活かせるかを考え、キャリアプランにつなげる。	精神専門看護師の役割と精神看護への関わりを理解し、将来の進路選択に役立つ視点を持つことができる。

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論Ⅲ	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	精神障害についての基本的な知識を学び、精神障害者の看護について理解する。 1. 精神障害の発症に影響する要因、その症状と診断、治療について理解する。 2. 精神看護に必要な判断と援助技術について理解する。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院） 医学書院精神看護学Ⅰ・Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA			評価方法	出席状況 授業への取り組み 提出物 試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【精神疾患】 症状を含む器質性精神障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
3 4	精神作用物質使用による精神行動の障害 1. アルコール依存症 2. 薬物依存症	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。離脱症状や患者への対応について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。離脱症状や患者への対応について説明できるか。
5 6	統合失調症	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。服薬指導や拒薬への対応について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。服薬指導や拒薬への対応について説明できるか。
7 8	気分障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。うつ病の典型的な症状や注意すべき観察項目について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。うつ病の典型的な症状や注意すべき観察項目について説明できるか。
9 10	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
11 12	生理的障害および身体的要因に関連した行動障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
13 14 15	パーソナリティー障害 性同一性障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
16 17 18	発達障害およびその他の児童期の精神疾患 てんかん	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
19 20	臨床検査 1. 脳波 2. 知能検査・人格検査	精神医学における臨床検査について理解できる。	精神医学における臨床検査について理解しているか。
21 22	【精神看護】 脳の仕組みと精神機能 1. 脳の部位と精神機能・神経伝達物質と精神機能 ・ストレス脆弱性仮説・睡眠障害と概日リズム	脳の仕組みと精神機能について理解できる。	脳の仕組みと精神機能について理解しているか。
23 24	治療と看護 1. 薬物療法・服薬管理・電気けいれん療法	各種、療法について理解できる。看護の方法について説明できる。	各種、療法について理解し、看護の方法について説明できるか。
25 26	精神看護の実践 精神症状に対する看護	精神症状に対する看護の理解を深める。	症状に対しての具体的な関わりや援助方法について理解しているか。
27 28	行動制限 1. 行動制限 2. 患者の処遇 3. 隔離と身体拘束	身体拘束の実施基準と注意点について理解できる。入院生活が起こす症状について説明できる。	身体拘束の実施基準と注意点について理解し、入院生活が起こす症状について説明できるか。
29 30	安全管理 1. 自殺 2. 暴力	安全管理について考察し、具体的な関わりや援助方法について説明できる。	安全管理について考察し、具体的な関わりや援助方法について説明できるか。

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論Ⅳ	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目的目標	精神医療の歴史や社会的背景、法制度を理解し、精神科看護に必要な知識と看護の役割、また災害時のメンタルヘルスケアについて学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院） 医学書院精神看護学Ⅰ・Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA			評価方法	授業への取り組み・課題の提出内容・プレゼンテーション・グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2 3 4	精神疾患・障害の歴史、日本の精神医療の変遷、社会・文化の影響、精神科看護に関わる法制度を学ぶ。	精神医療の歴史や社会的背景を理解し、精神疾患と社会・文化とのつながりを踏まえた看護の視点を養う。	精神疾患・障害の歴史、日本の精神医療の変遷、社会・文化の影響、関連法制度について理解することができる。
5 6 7 8	精神医療の地域移行、精神障害者支援の原則、学校・職場での精神保健と精神看護について学ぶ。	精神障害者の地域生活支援の原則と社会制度を理解し、社会生活の場での精神保健に関する知識を深める。	精神障害者の地域生活支援の原則や社会制度についての理解し、社会生活における精神保健の重要性を認識することができる。
9 10	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて学ぶ。	感情労働の重要性を理解し、看護実践での感情管理と共感疲労への対処方法を学び、組織への影響を考える。	感情労働や共感疲労の概念を理解し、看護実践において感情管理を適切に行う方法を知り、実践に活そうとすることができる。
11 12	災害時のメンタルヘルスケアと看護について学ぶ。	被災者支援の基本を理解し、災害時の心のケアについて多面的に考察できる力を養う。	災害の影響や支援方法について説明ができる、心のケアの意義や課題を論理的に考察することができる。
13 14	事例を通じて精神疾患の特性や患者の心理を理解し、看護のあり方について学ぶ。	精神看護の視点を養い、事例をもとに患者の心理や看護の課題について考察する力を身につけることができる。	精神看護の基本的知識を理解し、事例をアセスメントし看護のあり方について考察し、積極的に学ぶ姿勢を持って取り組むことができる。
15	考査	知識の定着を図り、基礎的な理解を深める。	精神看護に関する基本的な知識を理解し、適切に表現することができる。

専門分野 II	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類			
	成人看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目			
科目の目標											
<p>1 さまざまな健康段階にある成人期患者の疾病・治療経過を踏まえながら、患者の全人的理解に努める。</p> <p>2 既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践し、評価することを学ぶ。</p> <p>3 繼続看護の必要性を理解し、保健医療チームのなかで看護の役割を理解する。</p>											
学習内容	学習内容ごとの目標					指導上の留意点等					
・急性期疾患患者の看護 ・慢性期疾患患者の看護 ・終末期患者の看護	<p>患者の健康・機能障害を理解し、援助すると共に、生命維持・回復のための看護活動ができる。異常の予防・早期発見・機能回復のための援助、健康・機能障害に伴う日常生活上の制限に対して援助を行う。</p> <p>ストレス・危機状況にある成人期の患者・家族に対し、問題解決の系統的アプローチや看護理論を適用して、患者の力を引き出す看護実践ができるようになる。</p>					<p>病院で実習を行う。</p> <p>1年次と異なる診療科に入院する患者のケアが経験できるようになる。1年次の知識・技術を活用し、対象への看護を実践し、評価することができるよう実習を進める。</p> <p>保健医療チームのなかでの看護の役割を理解した、継続的な看護実践ができるように指導する。</p> <p>問題解決の系統的アプローチや看護理論を適用した看護実践ができるように指導する。</p>					
評価の情報源	教育形態										
出席、実習への取り組み、レポート、記録物 実習評価表（自己・病棟）	臨地実習・グループ演習										
評価規準											
関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能		知識・理解						
成人期の対象への看護について意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。	ストレス・危機状況にある成人期の患者の力を引き出すための看護介入を行うために、思考を深め、判断ができ、その成果を的確に表現できる。		成人期の発達課題を捉え、健康に破綻をきたしている対象に必要な看護技術（危機回避、コーピング強化、意思決定など）を適切に用いることができる。		成人期の対象を全人的に理解し、さらには継続看護を視野に入れ、保健医療チームのなかでの看護の役割を理解する。看護を計画、実施、評価するために必要な知識を持っている。						

専門分野 II	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類			
	老年 看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1○	専2○	全員必修科目			
科 目 の 目 標											
1 老年期の特徴と健康障害との関連性について理解する。 2 対象の健康状態により生じる問題を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施し評価できる。 3 人生の終末期における老人の生命と人格を尊重する態度を養う。 4 老人医療における保健福祉活動と看護の役割について理解する。											
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等					
1 健康レベルに応じた看護実践 (健康な生活の保持増進時、社会復帰期、慢性期、疾病の予防と早期発見、終末期、検査・治療に伴う看護)			• 老年期の患者の身体的、心理的、社会的特徴としての予備能力の低下を考慮に入れた援助ができる。			• 病院で実習を行う。 • 患者の同意を得て、病棟スタッフの指導のもとで、看護を行、看護過程を展開する。 • 既習の知識を活用しながら、対象への看護を実践し評価することができるよう実習を進める。					
2 機能障害時の看護実践 (呼吸・循環、栄養代謝、防衛機能、内部環境調節機能、感覚機能、運動機能、言語機能、性・生殖機能)			• 老年期の患者の治療处置援助と看護の実際を学ぶ。 • 老年期の患者に頻度高く見られる主要症状を理解し、看護援助ができる。 • 生活リズムをつけ、日常生活動作の維持拡大ができるよう援助する。								
3 周手術期の看護 (手術前、手術当日、手術後、救命救急時、急性期、回復への援助、術後合併症、終末期、検査・治療に伴う看護)			• 在宅看護へ向けて背景を考慮した導入計画と家族を含めた退院への援助を学ぶ。								
評価の情報源				教育形態							
出席状況 実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表（自己・病棟）				臨地実習・グループ演習							
評価規準											
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解						
老年期・高齢社会における加齢、生活、保健に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、高齢化現象、及び、精神的社会的発達から老年期にある患者を看護する実践的な態度を身につけていく。		老年期の患者の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけ、的確に表現することができる。			老年期・高齢社会にある患者の看護に関する基本的な技術を身につけ、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理することができる。			ライフサイクルの視点から、高齢化や加齢現象、および精神的・社会的状況から老年期における看護援助の基本的知識を身につけ、看護の意義や役割を理解している。			

専門分野 II	科目名 小児看護学実習	単位(h) 2 (90)	履修学年					科目の種類 全員必修科目							
			1年	2年	3年	専1○	専2○								
科 目 の 目 標															
1 小児の成長・発達、健康障害、家族の状況を理解する。 2 小児を1人の個として尊重し、成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。 3 対象の健康状態により生じる問題を、成長・発達を踏まえて把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 4 対象を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で、看護の役割について理解する。															
学習内容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等								
小児の入院環境 入院の受け入れ 主な症状と状態に応じた対象の看護			• 診察の介助ができる。 • 主な症状と各状態に応じた看護が理解できる。				病棟オリエンテーションの実施。								
入院生活の援助 診察・検査の協力 小児病棟の管理 人間関係技術  外来における小児と家族の看護 予防接種、健康診査			• 患児の入院生活を理解する。 • 病棟の特徴を理解する。 • コミュニケーション技術を学ぶ。 • 繙続的な健康管理について学ぶ。				成長・発達とその評価について学ばせる。  感染対策を講じる。								
主な疾患と看護 感染症 呼吸器疾患 消化器疾患 腎・泌尿器疾患 看護過程の展開 急性期、慢性期の状況にある患児			• 疾患に罹患した患児と家族を理解し受持患児の看護を学び、看護過程が展開できる。  • グループの受持患児の看護を学ぶ。				カンファレンスにおいて看護実践についての指導・助言を得る。								
評価の情報源				教育形態											
出席状況 授業への取り組み 提出物（レポート） 記録類 実習評価表（自己・病棟）				校外実習（臨地実習）											
評価規準															
関心・意欲・態度		思考・判断・表現			技能		知識・理解								
小児とその家族の健康障害、小児医療、人権の尊重、日常生活と人間関係のあり方に関心をもちその改善・向上を目指して意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。		小児とその家族の健康に関わる問題点の解決を目指して思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して論理的に考え、適切に判断し創意工夫する能力を身につけ、適切に表現する。			小児とその家族の理解と小児とその家族の健康についての援助に関する基礎的・基本的で安全な技術を身につけている。		小児とその家族の健康問題を身体的機能と心理・社会的側面から理解し、その援助を科学的根拠に基づいて考察し、基礎的知識を身につけている。								

教育内容	臨地実習	科目	母性看護学実習	単位数(時間)	2 単位(90時間)	学年	専攻科1・2年
科目の目標	1 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助、保健指導ができる。 2 妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深め、援助の必要性を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 3 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉との諸機関との関係について理解する。						
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論			評価方法	出席、実習への取り組み、レポート・記録物、実習評価表(自己・病棟)		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	<b>【母性看護の特徴】</b> 実習病棟の構造・設備・特徴について 入院している対象の特徴 褥婦の看護に必要な情報、看護診断の実際について、褥婦の看護に必要な観察および技術	病棟や対象の特殊性について知り、褥婦の看護に必要な情報収集ができ、看護診断の実際を理解する。	病棟や対象の特殊性について学び、褥婦への看護に必要な情報を収集できる。 褥婦の看護診断の実際、褥婦の看護に必要な観察点および技術について理解している。
	<b>【看護過程の展開】</b> 受け持ち褥婦・児に対して、個別性に応じた看護過程を展開する。	受け持ち褥婦・新生児をウエルネスの視点でとらえ、個別性に応じた看護の必要性を理解する。それぞれが実践した看護についてカンファレンスを行うことで、自らの看護を振り返るとともに、学びの共有を行う。	受け持ち褥婦と適切なコミュニケーションをとり、アセスメントができる。 受け持ち褥婦・児の健康を維持・促進する看護計画を立案できる。 看護上の問題をあげ、具体的な目標を立てることができる。 看護問題を解決するために、褥婦・児の状態に応じた援助が適切に実践できている。 カンファレンスを行い、自分の看護について振り返ることができる。
	<b>【知識・技術】</b> 母性看護における基礎技術 妊産褥婦・新生児の基本的な援助 母性外来の特徴(妊婦健康診査・保健指導・助産外来等)	母性看護領域独自の看護や、妊産褥婦・新生児への基本的な援助について理解する。 母性外来の特徴を理解し、妊産褥婦の基本的な援助・保健指導を学ぶ。	妊産褥婦・新生児の特徴を考慮し、正常に経過するための看護が実践できる。 母子相互作用を理解し、対象の状況に応じた援助を考え、実践できる。 母性外来の特殊性を学び、妊婦健康診査や妊娠週数に応じた保健指導、助産外来の意義について理解している。

教育内容	臨地実習	科目	精神看護学実習	単位数(時間)	2単位(90時間)	学年	専攻科 2年
科目的目標	精神疾患や障害が日常生活に与える影響を理解し、セルフケア能力を評価しながら「その人らしさ」を尊重して援助する。また、必要な社会資源を把握し、治療的対人関係を構築する知識と技術を養い、看護師の役割を理解する。さらに、疾患の各期の特徴を把握し、継続看護を考え、多職種連携を理解し、精神看護に向けて主体的に学び自己の課題を明確にする。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院） 医学書院精神看護学Ⅰ・Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院		評価方法	出席 実習への取り組み 事前学習内容 記録内容・提出状況 実習評価（自己・病棟）			

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	1. 実習事前学習	配属病棟ごとに提示された実習事前学習を行い、基礎知識を習得する。	実習展開に必要な内容を理解し、実習に臨めるようにしているか。
	2. 実習オリエンテーション	実習施設の特性や安全管理を理解し、倫理的配慮をもって患者と関わりながら、学びを深める姿勢を身につける。言葉や行動の持つ意味や背景を考えながら、患者の日常生活に参加することができる。	実習施設のルールや安全管理を理解し、倫理的配慮を踏まえた関わりができるとともに、学びを深める姿勢が見られている。
	3. 実習展開 (1) 病棟実習 作業療法 レクリエーション S S T 日々の患者との関わり	精神科医療の特性や各種療法の目的を理解し、病棟実習や患者との関わりを通じて、適切な支援のあり方を学ぶとともに、プロセスレコードを活用して自身の関わりを振り返り、自己洞察を深める姿勢が見られる。	精神科看護の実践を通して理解を深め、患者の状況に応じた関わりができるとともに、プロセスレコードを活用して自身の関わりを振り返り、自己洞察を深める姿勢が見られる。
	(2) 受け持ち患者の看護展開 ①受け持ち患者を持ち、 看護過程を展開する ②カンファレンス	受け持ち患者の看護を通じて、精神科看護の展開方法を学び、カンファレンスへの参加を通じて患者の状況を多角的に捉え、適切な看護を検討する力を養う。	受け持ち患者の看護を実践し、根拠に基づいた看護展開ができるとともに、カンファレンスでの情報共有や意見交換を通じて、患者の状況を多面的に考える姿勢が見られる。
	(3) 臨床講義 認定看護師、薬剤師、 作業療法士、臨床心理士、 精神保健福祉士  (4) 精神障害者生活訓練施設、 地域活動支援センター見学	多職種の役割や精神科医療・福祉の支援体制を理解し、講義や施設見学を通じて、精神障害のある人への包括的な支援のあり方を学ぶ。	多職種の専門性や支援の実際を理解し、精神障害のある人の生活や社会復帰を支えるための視点を持つことができる。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類						
	在宅看護論総論	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目						
科目の目標														
地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護の基礎知識・技術を習得する。ニードに基づく生活行動の支援方法及び社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。														
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等								
1) 在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護の目指すもの ②在宅看護における看護師の役割 ・機能 ③在宅看護における看護師の倫理 ④必要とされる社会背景			地域で生活している人々に視点をおき、高齢社会の到来、社会情勢の変化、人々の健康に対する考え方の変化など増大する在宅ケアニーズの背景や在宅看護の必要性・目的について学ぶ。			既習の社会情勢の変化と在宅ケアニーズを結びつけて理解させる。								
2) 在宅看護の対象者・法令・制度 ①対象者の特徴 ②家族 ③在宅看護の仕組み ④世界の訪問看護の動向			在宅看護の主要な方法としての訪問看護について、保険制度による対象や継続看護の本質、さらに保健所など各施設の訪問看護の特徴について学ぶ。			退院後の生活を支える社会資源について理解させる。また、各施設による訪問看護の目的・活動内容の違いを知り、地域の健康を守る方策を理解させる。								
3) 在宅看護の展開 ①在宅看護看護過程のポイント ②在宅看護過程の展開方法 ③他職種との連携 ④在宅看護における安全性の確保 ⑤対象者（家族も含む）権利保障			事例から、アセスメントに必要な項目や利用できる社会資源、利用者・家族に提供するケアを具体的に学ぶ。			事例を基にグループ演習を行い、看護過程の展開の方法を理解させる。								
使用教科書・教材・実技実習材料など														
系統看護学講座 在宅看護論 医学書院														
評価の情報源				教育形態										
出席状況、授業への取り組み 提出物（レポート） 試験				授業：（講義・グループ） 演習										
評価規準														
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解											
疾病や障害を持ちながら在宅で生活する人やその家族の背景および社会資源の活用方法に関心を持ち、日常生活を支援できるよう、また、その改善と向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けていく。	在宅で生活する人々や家族に対して、基礎・基本的な知識や技術を活用し、適切に判断し創意工夫し援助することができる。また、在宅看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について日常生活と関連づけて考察し、その成果を的確に表現する。	在宅看護に関する基礎・基本的な知識を身に付け、家族への説明・指導を行うなどの看護者としての態度、関わる人々との関係維持などが適切に実践できる。	在宅で生活している人々やその家族の全体的な生活背景の理解と社会資源の活用方法、また、科学的根拠に基づいた援助を理解し、基礎・基本的な看護を身に付け、看護の意義や役割を理解している。											

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類							
	在宅看護論方 法論 I	1 (30)	1年	2年	3年	専1	専2〇								
科目の目標															
在宅看護の対象のレベルを理解し、適切な観察力、安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠に裏付けられた看護技術を修得する。															
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等									
1) 在宅看護技術 ①在宅で求められる看護技術の応用 ②在宅医療技術			在宅で療養している人々のADLやIADLを支えるための援助技術を対象に応じて選択・実施できる。			事例を提示しながら、どの援助方法を選択するのかを演習をしながら、判断できるよう促す。									
2) 皮膚疾患の適切な観察と援助技術 ①皮膚疾患の要因(身体的・社会的・心理的)と特徴 ②援助・指導(衣生活・栄養・食事指導・スキンケア)			皮膚疾患の特徴を知り、その観察ポイントを学び、指導内容や援助方法を知る。			実際の事例などを説明しながら、それぞれの疾患の特徴や症状、診断、治療について理解させる。									
3) 咀嚼・嚥下障害時の適切な観察と援助技術 ①歯・口腔疾患の特殊性と治療 ②問題把握と看護援助の概要			咀嚼・嚥下障害時の適切な観察ポイントを知り、その援助技術を知る。			実際の事例などを説明しながら、それぞれの疾患の特徴や症状、診断、治療について理解させる。									
使用教科書・教材・実技実習材料など															
・系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 ・系統看護学講座 成人看護学(12)皮膚 医学書院 ・系統看護学講座 成人看護学(15)歯・口腔 医学書院															
評価の情報源				教育形態											
出席状況 授業への取り組み 提出物(ノート・レポート) 試験				授業:(講義・グループ) 演習											
評価規準															
関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能		知識・理解										
在宅で生活する上での看護・医療・福祉・疾病・障害・家族・日常生活と人間関係の在り方に関心を持ち、日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けています。	在宅で生活していく上での対象に関わる問題点を解決するため、基礎・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し創意工夫をすることができ、その成果を的確に表現する。		在宅で生活していく上での対象に関わる基礎・基本的な技術、科学的根拠に基づき安全安楽を考慮した援助が実践できる。		在宅で生活する人々の現状を知り、科学的根拠に基づいた援助を理解し、基礎・基本的な知識・技術を身に付けるとともに在宅看護の意義や役割を理解している。										

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
			1年	2年	3年	専1	専2○										
科 目 の 目 標																	
在宅看護の対象のレベルを理解し、適切な観察力、安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠に裏付けられた看護技術を修得する。																	
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等											
1) 感覚器（視覚）の変化における適切な観察と援助技術 ①眼科領域の疾患の経過、観察、援助技術 ②コミュニケーション障害による自己概念の変化（社会的活動の制約、心理・社会問題）			眼科疾患の特徴を知り、その観察ポイントを学び、指導内容や援助方法を知る。			実際の事例などを説明しながら、それぞれの疾患の特徴や症状、診断、治療について理解させる。											
2) 感覚器（聴覚）の変化における適切な観察と援助技術 ①耳鼻咽喉科領域の疾患の経過、観察、援助技術 ②コミュニケーション障害による自己概念の変化（社会的活動の制約、心理・社会問題）			耳鼻咽喉科疾患の特徴を知り、その観察ポイントを学び、指導内容や援助方法を知る。			実際の事例などを説明しながら、それぞれの疾患の特徴や症状、診断、治療について理解させる。											
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
・系統看護学講座 成人看護学（13） 眼 医学書院 ・系統看護学講座 成人看護学（14） 耳鼻咽喉 医学書院																	
評価の情報源				教育形態													
出席状況、授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験				授業：個人・グループ 演習													
評価規準																	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解														
感覚器に障害のある人々が在宅で生活する上で看護・医療・福祉・疾病・障害・家族・日常生活と人間関係の在り方に関心を持ち、日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けていく。	在宅で生活していく上で対象に関わる感覚器の障害による問題点を解決するため、基礎・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し創意工夫をすることができ、その成果を的確に表現する。	在宅で生活していく上で感覚器に障害のある対象に関わる基礎・基本的な技術、科学的根拠に基づき安全安楽を考慮した援助が実践できる。	在宅で生活する感覚器に障害のある人々の現状を知り、科学的根拠に基づいた援助を理解し、基礎・基本的な知識・技術を身に付けるとともに在宅看護の意義や役割を理解している。														

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
			1年	2年	3年	専1	専2 ○										
科 目 の 目 標																	
在宅看護論総論と方法論Ⅰ・Ⅱで学習した知識・技術を統合し、演習・ロールプレイングを通して必要な看護展開が理解できる。																	
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等											
1) 在宅看護における看護過程の展開 ①在宅ケアの基礎技術（医療処置技術・リハビリテーション・健 康教育） ②事例を提示し、看護過程を紙上で展開する。			在宅で療養している人々を支える医療処置技術やリハビリテーション技術を理解する。			事例を提示しながら、どの援助方法を選択するのかを演習をしながら、判断できるよう促す。											
2) 基本的な生活行動援助の演習			基本的な生活行動援助について演習を行い、技術を身につける。			小グループに分かれ、課題に応じた実技演習を行う。											
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
・系統看護学講座 在宅看護論 医学書院																	
評価の情報源				教育形態													
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験				授業：（講義・グループ） 演習													
評価規準																	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能		知識・理解												
在宅で生活する上で の看護・医療・福祉・ 疾病・障害・家族・ 日常生活と人間関 係の在り方に関心を 持ち、日 常生活と関 連づけてそ の改善・ 向上を目指して意欲的 に取り組むことでき る。	在宅で生活していく 上での対象に関わる問 題点を解決するため、 基礎・基本的な知識と 技術を活用して、適切 に判断し看護計画を立 案することができる。 また、その成果を的 確に表現する。		在宅で生活していく 上での対象に関わる 基礎・基本的な技 術、科学的根拠に基 づき安全安楽を考慮 した援助が実践でき る。		在宅で生活する人々 の現状を知り、科学 的根拠に基づいた援 助を理解し、基礎・ 基本的な知識・技術を 身に付けるとともに 看護過程の展開が できる。												

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
			1年	2年	3年	専1	専2○										
科 目 の ね ら い																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。医療安全のための基礎的知識が理解できる。</li> <li>・チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できる。</li> </ul>																	
学習内容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等										
<b>看護管理</b> 1 看護とマネジメント			看護におけるマネジメントの概要が理解できる。				「医療安全管理」においては、統合ゼミの医療安全の演習のための基礎的知識について取り扱う。										
2 ケアのマネジメント ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利 医療安全管理			看護職のケアのマネジメントについてその過程と機能が理解できる。患者の権利を守るためにの概念について理解できる。医療安全のための基礎的知識が理解できる。														
3 看護サービスのマネジメント 情報のマネジメント キャリア開発			組織をマネジメントすることの概要が理解できる。また守秘義務、プライバシーの保護、情報開示の必要性、キャリア開発の必要性について理解できる。														
4 看護をとりまく諸制度 看護職の職業倫理			看護業務と職業倫理について理解できる。														
<b>チーム医療論</b> チーム医療及び多職種との協働 メンバーシップ リーダーシップ			チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できる。				チームアプローチについて具体的な例を挙げ、その必要性と課題について取り扱う。										
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
系統看護学講座 看護管理 医学書院																	
評価の情報源				教育形態													
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験				授業（講義・グループ演習）													
評価規準																	
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解											
看護におけるマネジメント、医療安全、チーム医療について関心をもち、自ら看護の果たすべき役割を追求しようとする実践的な態度を身に付けています。		看護におけるマネジメント、医療安全、チーム医療について、論理的に考え、適切に判断をすることができる。また、その成果として自己の人間観・看護観を的確に表現できる。		看護におけるマネジメント、医療安全、チーム医療について、適切な技術を身に付け、その展開を工夫する能力を持つ。		看護をマネジメントできる基礎的知識、医療安全のための基礎的知識が理解できている。チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できている。											

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類									
			1年	2年	3年	専1	専2〇										
科 目 の 目 標																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる。</li> <li>・災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。</li> <li>・家族について基礎的知識を持ち、家族エンパワーメントを支援する方法を理解する。</li> </ul>																	
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等											
(1) 国際看護 ①国際交流と国際協力 (政府ベース・民間ベース・国際赤十字など) ②国際機関への協力 (WHO・ICNなど)			国際協力の実際について様々な機関とその活動を学び、国際的視野が持てる。また、看護師として諸外国との協力を考えることができる。			保健医療・看護における国際協力の実態について理解を促し、グループワークを取り入れながら、国際的な視野を持つことの重要性に気付かせる。											
(2) 災害看護 ①災害・災害看護に関する知識 ②看護の役割と看護活動 ③災害時に必要な技術(トリアージなど)および精神的援助			災害看護の理念と歴史など災害に必要となる基本的な概念を理解し、また、災害の種類や災害が健康及ぼす影響について理解する。 災害発生直後から中長期的に、広い範囲で活動する状況に応じた医療従事者の役割について理解し、そのために必要な基礎的知識を身につける。			災害が心身に及ぼす影響について理解したうえで、避難所運営についてグループ演習を行う。 災害時の対応についての動画視聴などにより、実践的な学びが出来るようとする。 実習機関で行われる避難訓練に参加し、災害看護の実際に触れる。											
使用教科書・教材・実技実習材料など																	
系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 (医学書院) 自作プリント																	
評価の情報源				教育形態													
出席状況 授業への取り組み 提出物(ノート・レポート) 小テスト ペーパーテスト				授業:個人・グループ 演習 講演													
評価規準																	
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解											
国際看護・災害看護に関心を持ち、国際的視野や家族を見る視点から看護の役割を考えていく意欲を持っている。		国際看護・災害看護について、様々な状況で求められる判断の根拠を示すことができる。 それぞれの状況でどのように支援するかを表現できる。		国際看護・災害看護について求められる基礎的技術を身につけている。		災害直後からの支援に当たるための基礎的知識が理解できている。 国際的な視野と医療情勢をアセスメントする視点について理解できている。											

統合 分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類								
	看護研究	1 (30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目								
科 目 の 目 標																
<p>看護問題を科学的に解決できるよう研究的態度について学ぶ。</p> <p>臨地実習で根拠に基づき実践した看護過程を振り返り、看護研究としてまとめあげる。</p>																
学習内容	学習内容ごとの目標					指導上の留意点等										
1 科学的根拠に基づく看護過程のまとめ 2 研究計画の立案 3 文献検索 4 研究論文の構成 5 プレゼンテーションの演習 6 看護研究発表 7 看護研究冊子作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習で自分が行った看護の看護過程について振り返り、科学的看護についての研究のまとめ方の基本を学ぶ。</li> <li>・自分の看護研究をまとめ、プレゼンテーションソフトを使用し発表したり、クラスマートの発表を聞くことにより、研究に必要な態度や知識を身につける。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究をまとめるにあたって守るべきルールや倫理的配慮、情報の取り扱いや、文献、インターネットの使用時の留意事項等について指導する。</li> <li>・自分の行った看護について客観的な見方や科学的な思考ができるように指導する。</li> <li>・研究を発表するための様々なツールの活用方法や発表時の態度などを身に付ける。</li> </ul>										
使用教科書・教材・実技実習材料など																
<p>系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）</p> <p>NANDA-I 看護診断 定義と分類（医学書院）</p>																
評価の情報源	教育形態															
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 提出物（論文）	<p>授業・個人 演習</p>															
評価規準																
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解											
疑問や問題を粘り強く探求していくこうとする態度を養うと共に、専門職業人として研究に実践的に取り組もうとする態度を身につける。	既存の知識や理論を活用するプロセスを学んだ上に、より適切な看護実践につなげるための研究の重要性を理解し、科学的思考や判断能力を身につけ研究成果をわかりやすく発表することができる。	研究において自己の考えを論理的に述べることができると共に、周囲の者とも積極的に意見交換を行う技能を身につけることができる。			看護における様々な研究の既存の知識や理論について知識を持った上に、専門職業人としての研究の意義や重要性を知り、そのプロセスを理解することができる。											

統合 分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	統合ゼミ	1 (30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

### 科 目 の 目 標

臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができるようにする。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
<b>医療事故シミュレーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自が、場面設定に応じた看護師の役割のロールプレイングを体験する。</li> <li>誤薬のリフレクションを行う。</li> <li>各グループで振り返り、ディスカッションを行う。</li> </ul> <b>家族看護</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族とは何か、家族を看護するということ、家族のライフコースに見る生活と健康、家族看護の基礎理論について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故シミュレーション体験・リフレクションを通して、誤薬を起こしやすい自己の傾向を理解する。自己の傾向をふまえた誤薬の対処方法を考え、意識して行動することの必要性に気づく。</li> <li>家族看護の意義と看護の対象である家族を理解し、家族看護の方法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リフレクションを実施させる。「事故を起こした」「ヒヤリハットした」と思った場面を振り返らせ、自己の傾向を探る。</li> <li>危機状態にある時の自分の思考・判断・行動の傾向に気づかせ、対処方法を学ばせる。</li> <li>子供の虐待と家族、在宅で看取る高齢者の看護等、例をあげながら考えさせる。</li> </ul>
<b>状況設定下での看護技術の実践</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の状態を判断し、状況に応じた看護技術の習得</li> <li>事例を提示し、その状況に応じた看護技術を実施、患者の対応を学ぶ。</li> <li>状況下での看護技術についてグループワークを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の状態を判断し、状況に応じた看護技術の提供ができる。</li> <li>患者への適切な説明、反応に対する対応ができる。</li> <li>患者の安全・安楽、自立度に応じた看護技術の実践ができ、自分の傾向を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者に応じた適切な判断で援助ができるように学ばせる。</li> <li>評価を行い、個人の傾向を振り返ることができるよう促し、実践に活かせるようにする。</li> </ul>
<b>総合演習</b> <b>看護師に必要な知識の統合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師に必要な知識を身につけ、看護実践能力を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師に必要な知識を統合し判断でき、実践に活かせる能力を習得させる。</li> </ul>

### 使用教科書・教材・実技実習材料など

- ・系統看護学講座 統合 看護管理 医学書院
- ・自作プリント

評価の情報源			教育形態		
出席状況	授業への取り組み	提出物	授業（講義）	授業（グループ）	演習
試験	小テスト		校内実習		

### 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
臨床に近い状況での実践を行うことで、卒後に向けて対象者の援助に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。	臨床に近い状況での実践を伴うために、対象者や周りの状況を的確に判断し、必要な対応ができる思考もつており、自分の考えを表現する。	臨床に近い状況で、対象者や周りの状況に応じた適切な看護技術の提供ができる。	臨床に近い状況での適切な判断ができる知識を持っている。また、看護師に必要な統合的知識を理解している。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類	
	在宅看護論実習	2(90)	1年	2年	3年	専1	専2 ○		
科目の目標									
1. 地域内で療養する人々とその家族の問題を生活の問題として理解し、その人々が在宅で健康の維持、増進が図られるよう援助できる能力を養う。 2. 地域内で生活する人々の健康の保持、増進、疾病予防のための援助ができる。 3. 地域内で生活する人々の健康上の問題、関連する諸問題の解決にかかわる職種の役割、機能を理解し、看護の役割を理解する。									
学習内容			学習内容ごとの目標					指導上の留意点等	
1) 実習事前レポート  2) 実習オリエンテーション  3) 実習展開 (1) 介護老人保健施設・特別養護老人ホーム(3日)  (2) 保健所(2日) 保健センター(1日)  (3) 保育所(2日)  (4) 訪問看護ステーション(2日)			実習場所ごとに提示された項目をレポートし基礎知識を習得する。  実習の到達目標、方法を知る。  施設で生活する老人の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解する。老人の生活を支える職種の役割・機能を理解し、看護の調整的役割について学ぶ。  保健所の機能の概要を知り、市町村保健センターとの連携を理解する。地域住民の健康上の問題を知り、保健活動を通して看護の役割について理解する。  乳幼児期の身体的・心理的・社会的な成長発達の状況を捉えることができる。地域における保育所の役割・現状について知る。  同行訪問し、在宅で療養する人々の実態を知り、訪問看護がどのように在宅療養を支えているか、また、社会資源の活用や他職種との連携の方法について学ぶ。					必要な基礎知識について確認する。  実習の到達目標、方法について説明する。  実習が円滑に進むよう、実習指導者やスタッフと連絡調整しながら実施する。  乳幼児から老人まで、各発達段階に応じて求められる看護・介護の特徴について理解できるように支援する。  地域住民を対象とする看護の役割について理解し、予防的なかかわりで健康の維持・増進ができること、また、医療・保健・福祉の連携の必要性について理解できるよう指導する。  在宅で療養する対象者が社会資源をどう活用し、訪問看護に同行し療養者をどう支えているかを理解させる。	
評価の情報源				教育形態					
出席、実習への取り組み 事前レポート 記録内容・提出状況 実習評価				臨地実習 カンファレンス グループ演習					
評価規準									
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解						
地域(施設・在宅)で療養する対象者の看護に関心をもち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける。	地域(施設・在宅)で療養する対象に関わる問題点を専門的知識を活用し考え、判断できる。自分なりの表現で家族などの介護者に説明できる。	在宅で療養する対象者が必要とする看護の役割と求められる基礎知識や技術を身につけている。	実習を通し、在宅看護の役割、病院などとの継続看護の必要性、社会資源の活用や他職種との連携が理解できる。						

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類						
			1年	2年	3年	専1	専2〇							
科 目 の 目 標														
人間の理解と専門的知識を統合し、複数の対象のニーズに対応した看護が医療チームの中で展開できる。														
学習内容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等								
1 複数患者の援助の優先順位と時間配分 (1) 受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更、援助計画の実施と修正 (2) 援助実施の良否、優先度の判断 (3) 適切な時間での実施 (4) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整 (5) 看護の実践と評価・効果の判定 (6) 適時・適切な人への報告調整			・複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。			・病院で実習を行う。 ・病棟スタッフの指導のもとで、複数患者を受け持ち看護を展開する。 ・既習の知識を活用しながら、対象への看護を実践し評価することができるよう実習を進める。								
2 看護管理の実際 (1) コーディネーターの役割と業務の実際 ①医師への報告・連絡調整 ②チーム及びスタッフへの連絡調整 ③病院内外の部門との連絡調整 (2) チームメンバー間の協力・行動調整 ①病院組織における看護管理 ②病棟管理者の役割と業務			・看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 ・看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解することができる。			・リーダー業務・看護管理業務は見学実習とする。 ・一勤務帯を通した実習を行う。								
3 既習の知識、技術、態度の統合 (1) 今までの実習の中で経験したケアの深化 (2) 未経験のケアへの準備と実施 ①チェックリストにより未経験の看護技術を明確化 ②明確になった自己課題についての実施計画立案 (3) 日々の看護実践の自己評価 (4) 流動的環境の中での実践			・既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 ・これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。											
評価の情報源				教育形態										
出席状況 実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表（自己・病棟）				臨地実習・グループ演習										
評価規準														
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能			知識・理解									
看護管理・病棟管理に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組み、既習の知識を統合し患者を看護する実践的な態度を身につけている。	複数患者の受け持ち時や一人の患者に必要な複数の看護の優先順位を考えたり、流動的環境の中で判断し看護を実践できる。その成果や看護の要点について的確に表現することができる。	既習の基本的な技術を統合し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する技能をみに付けている。			複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性や看護管理の実際等について理解でき、既習の知識と統合し、自己の課題を明確にできる。									